

穴道町最古の横穴式石室 6 伊賀見1号墳

八束郡穴道町白石



丘陵上にあり、古墳からは穴道湖を見下すことができます。全長二五メートルの前方後方墳と推定され、長さ六メートルの横穴式石室（石棺式石室）が開口しています。一九五八年に調査されるまで未開口でしたが、現在は天井石がなく、石室を上から見ることができます。壁はほとんどが一枚の切石で作られており、よほど正方形で、中央に通路と屍床（死者を置くベッド）を区切る仕切りがあります。壁はほとんどが一枚の切石で作られており、正面から見ると「かんぬき」の浮き彫りがわかります。出土品から六世紀後半ころの古墳であることがわかります。



1 切石古墳
小さなが大きな意味が
墳丘は失われていますが、切石造りの小さな横穴式石室が残っています。石室の中は一人しか入れない広さで、一枚石をうまく組み合わせて造られています。遺物は知られていませんが、石室の特徴から七世紀の古墳と考えられます。遺物の影響も見られることが多く、この地から中央へ出向いた人がいたのかもしれません。

篠川郡佐田町朝原

?

7

?

7

6後

?

6後